

花時計

No.27

川村学園女子大学

〒270-1138 千葉県我孫子市下ヶ戸1133番地
Tel.04-7183-0111(代) Fax.04-7183-0115
ホームページ <http://www.kgwu.ac.jp/>



ホームカミングデイ

人文科学研究科長 梅村 恵子



KEIKO UMEMURA

鶴雅祭の初日、14号館のロビーでホームカミングデイの集まりが催された。大学を巣立った卒業生たちに母校の今を見てもらい、旧友たちとの交歓の機会になればと、今年初めて試みた催しである。当日、本当に久しぶりに会った卒業生たちは、「先生まったくお変わりありませんね」と言ってくれた。彼女たちも大人になって、社交辞令も心得ている。

我孫子の地で大学が開学して、20年以上が過ぎた。開学時は文学部1学部、1年生が240名ほどで学内は閑散としており、図書館の蔵書は揃わず、天王台と大学を結ぶバスも本数が少ない等々、当時の学生は随分不便を感じていたに違いない。それでも彼女たちが大学へ限らない愛着を感じてくれていることに、至らない教員であった私は恐縮するばかりである。

卒業生たちは、15号館まで学舎が増え、様変わりした大学の風景に驚きながら、女子らしい華やぎにあふれている母校の発展を心から

喜んでくれた。家庭に入って子育てに奮闘中の人、教員として円熟した活動をしている人、転職をしてようやくスキルを身につけることができた人など、卒業生の近況を聞きながら、想い出話にふける楽しいひと時を過ごすことができた。大学院の担当をしている私としては、仕事に育児に一段落した卒業生が、より深い教養をつけ高度な知識や資格を得るために大学院へ進学してくれることを願っている。川村の卒業生がより豊かな人生を歩むための手助けができるように、私ももう一歩先に進む努力をしたい。

今回のホームカミングデイは初めての試みで、準備が整わず卒業生への連絡、宣伝も十分ではなかったために、残念ながら参加者の数は少なかった。来年も鶴雅祭に合わせて開催を予定していると聞いている。退職された先生方もいらしてくださっているの、お友達にも声をかけて、大学の今を確かめに参加してほしい。

鶴雅祭レポート

第21回鶴雅祭を終えて

学園祭実行委員長 史学科 3年 中村 優香

今年の鶴雅祭は、10月17・18日に開催されました。テーマは、「華やかさ」・「可愛らしさ」のあるものにとの願いをこめて「乙女革命～Girl's Revolution～」としました。

今年は、両日とも天候に恵まれ、キャンパス内には学生たちの活気があふれていました。日曜日には、お笑いライブショーを開催しました。来場者は、両日をあわせて2700名以上を迎え、盛況のうちに終わることが出来ました。

来年は、今年の経験を生かし、さらに充実した鶴雅祭になるように期待しています。

最後になりましたが、実行委員を代表して、鶴雅祭を成功へと導いてくださった皆様に厚くお礼申し上げます。



文学部



●国際英語学科

恒例のレシテーション／スピーチコンテストの他、昨年に引き続き、桂三枝のもとで修業中のカナダ人落語家桂三輝(さんしゃいん)のEnglish "Rakugo"、そして今年は2年生を中心に@Home Kitchenでスープの販売とフリーマーケットを行いました。



●史学科

史学科では、3年生が中心になって、喫茶史学家(しがくや)を開店しました。壁には歴史クイズを掲げ、戦国大名家紋カードなどを売り、自分たちで作った各国の伝統衣装で給仕しました。歴史版コスプレ喫茶ですね!? お客さんもたくさん来て大成功でした。



●心理学科

心理学科では人気の「箱庭療法体験」「コラージュ療法体験」、さらに恒例となった北原ゼミの「卒業生に聞こう」の3大企画が2日間にわたって行われました。参加者はもちろん、大学院生・学生も十分楽しめたと思います。



教育学部



● 幼児教育学科

幼児教育学科では、オペレッタ「大きなカブ」劇「七匹のこやぎ」の上演、乳児保育室での「ちびっこ水族館」、図画工作室での「タコ作り」を行いました。小さな子どもたちがたくさん遊びに来てくれました。



● 児童教育学科

児童教育学科の1年生を中心にした劇パフォーマンスは、今子ども達に大人気のヤッターマン、ドラゴンジョー等が登場しさらにポニョのかわいらしい世界をも演出。多数の参加者と共にたのしい思い出のひとときとなりました。



● 社会教育学科

社会教育学科は、カフェ、漢字ゲーム、高齢者の疑似体験、さくら会という高次脳機能障害の方々を支援する団体との合同企画で、学生の手作りアンモナイトマグネット他を作りました。予想した以上の方々が来て下さいました。来年も、またお越しください。



● 情報コミュニケーション学科

情報コミュニケーション学科では、日頃の学習の成果の発表として、レゴロボットのデモを行いました。また、ストラックアウト、風船売り、ヨーヨーのイベントをとおして、来場者の方々と学園祭を楽しみました。

人間文化学部



● 日本文化学科

日本文化学科恒例の和風喫茶「月の雫」が今年も2号館にオープンしました。浴衣姿の一年生が張り切ってお客様をおもてなしました。メニューのスイートポテトは特に好評。

また、14号館円形ステージでは日本舞踊の実技で磨いた舞姿『藤娘』を披露。多勢の方々に拍手を頂きました。

皆で力を合せることの楽しさを味わった二日間でした。



● 観光文化学科

「Cafe Mouse」では、お茶を飲み音楽を聴きながら各ゼミの研究発表の展示やさまざまな観光情報に触れられる空間を提供しました。また「マンゴー・パラダイス」ではマンゴーパフェやマンゴージュースなどの販売を行いました。



● 生活文化学科

今年は、毎年恒例の手作りにんじんジャムとマフィンに鶏井が加わりました。初登場の鶏井もご好評を頂き完売することができ、学生の顔には安堵感とさわやかな笑顔がこぼれていました。また、「お母さんの命を守る」（世界人口基金東京事務所）パネル展では来場者も多く、1分間に1人の妊産婦が命を失っているという事実を耳を傾け、写真を熱心に見て頂き、女性の生き方やあり方の大切さを感じて頂いたようです。オリジナルMakingは、ピーズのアクセサリやストラップ他、Hey! Nix は深山遊谷の作品やオリジナルTシャツなど手作り派クラブとして今年も好評を頂きました。

鶴雅祭のクラブ活動



学園祭を終えて

茶道部 鈴木 真実

今年の学園祭は、茶道部にとって初めてのSAセンターでのお茶会となり、例年とは違う配置や進行方法で行ったのでとても大変でした。その中で、部員一人一人が考え、協力しながらとても良いお茶会ができたと思います。これからも部員が協力し、茶道部が発表していける活動をしていきたいと思っています。

アカペラ研究会 La musica

学外活動として6月に参加した千葉県合唱連盟主催の合唱祭で、顧問の尾見先生の知人の方がご指導なさっているという混声合唱団 Ensemble Maius とジョイントをしたことがきっかけで、先日の学園祭でもコラボレーションをしました。更にアカペラだけではなく、伴奏や手拍子などをつけていつもとは違う雰囲気曲を歌うなど、今年の学園祭では部員一丸となって新しいことに挑戦し、心から楽しく歌うことができました。

今回の学園祭で新しい歴史を切り開いたLa musica。これからも、歌っている私たちも、聴いてくださる皆様も、楽しく、心地よいと思える歌を歌えるように、様々なこと、様々な歌に挑戦していきたいと思っています。



キャンパスから

●●●FEATURE

「あびこ楽校フェスティバル」を終えて

社会教育学科 教授 西川 将巳

川村学園女子大学では、昨年度に引き続き、今年度も本学キャンパスにて「あびこ楽校フェスティバル」を開催した。

この「あびこ楽校フェスティバル」というのは、我孫子市が、地域の生涯学習の振興を目的として「あびこ楽校協議会」を組織化し、その協議会推進のもと、平成17年より5年計画で実施している市民祭である。今年度は9月が、



このフェスティバル月間。9月13日（日）に、オープンキャンパス、家庭教育フォーラムと同時に、大学キャンパスを市民の方々にも開放し、このフェスティバルを共催する運びとなった。

この5年間、毎年、フェスティバルのトータルテーマ「一生涯学習」の一文字ずつを順に取り入れサブテーマを決めてきたが、本年度は5年計画の最終年。この最後の一文字「習」を取り入れて、本学のサブテーマは「キャンパスで習う」とした。そして、今年も、多くの地域の方々に本学キャンパスに足を運んでもらい、バラエティに富んだ大学の講義を習い楽しんで戴くことを企画した。昨年度の開講数は8講座であったが、今年は8名の先生方のご協力のもと、全11講座を開講することができた。ゼミ学生

たちが様々な活動を担ってくれた講座もあり、サブテーマらしい大学の薫りたどよう公開講座となった。昨年は、のべ60名程度であった来校受講者数も、本年は192名と、昨年の3倍以上にのびた。プラスバンド部、ハンドベル部、ジャズ・クラシック研究会の学生たちの演奏もあり、フェスティバルに華やかな雰囲気を加えてくれた。多くの学生達や教職員の皆様のご協力に心より感謝申し上げます。

受講された市民の方々の感想も、昨年同様、概ね好評で、「また是非、講義を聞きたい」「連続した講義として企画して欲しい」といったご意見が、多数見受けられた。地域に根付いた大学として、今後是非、こういった教育・啓蒙活動を継続して行く必要性を痛感した次第である。

家庭教育フォーラム

子どもたちの主張「もっと子どもの話を聞いて！」を開催

社会教育学科 教授 斎藤 哲郎

平成21年9月13日、川村学園女子大学において「家庭教育フォーラム」（千葉県教育委員会との共催）が開催された。

最近、家庭や地域の教育力の低下、子どもの自立心や社会性の欠如などが指摘されるなど、子どもを取り巻く環境の悪化に加えて各種の問題が複雑化していることなどから、行政と大学が協力して初めて企画した事業であった。シンポジウムや講演会の司会、受付、会場案内など学生たちが中心となって事業の運営にあたった。

午前中は「子どもシンポジウム」、午後には「講演会」が行われ、学校教育・社会教育関係者、PTA役員、保護者、市民など250名を越える



「もっと子どもたちの話を聞いて」

人々が参

加した。

子どもシンポジウム「もっと子どもたちの話を聞いて」（コーディネーター：斎藤哲郎）では、小・中学生（6名）からは「歩きタバコやポイ捨てをする人がある。このような人は大人とは言えない」「悪いと知っていながら覚醒剤に手を出す人がある。なぜなのか」「学校の勉強だけでなく、もっといろんなことを教えて欲しい」などの発言があった。

参加したPTAの役員は、「今まで聞こえてこなかったことがたくさん聞こえてきた。自分自身もっと大人になる努力をしなければと反省した」。ある父親は「親の意見を押しつけるのではなく、子どもの話をじっくり聞くことの大切さを感じた」。また教師の一人は「これからは、子どもたちと言葉のキャッチボールを大切にしていきたい。利便性だけを求めるのではなく、コミュニケーション能力を身に付けさせる教育に重点を置く必要性を感じた」などの意見や感想が述べられていた。

午後の講演会

「子どもたちのサインが読めますか！」

（白梅学園大学汐見稔幸学

長）では、先生

からは「子どもたちが目を光らせる体験をい

っぱいさせること。生まれて良かったと思う

ようにさせるのが親の役割である」。「これか

らは諸外国との関係が一段と強くなり異文化

との共存社会が間違いなくやってくる。その

ためには21世紀バージョンの子どもの育成が

必要である」などの視点から、「社会の変化に

大人がついていけない。まずは親や大人

が変わること」と力説された。

参加された方々には、あらゆる場面におい

て前向きに取り組んでいただきたいと願いつ

つ、私自身も地域社会や関係機関との連携を

模索しながら今後も積極的に取り組んでいき

たいと思っていますところである。



「子どもたちのサインが読めますか！」

川村学園女子大学 女性学研究所 トークショー報告

女性学研究所・所長 柚木 理子

2009年10月17日（土）14時から16時まで、14号館ラウンジにおいて女性学研究所主催の第7回目のイベントとして、トークショー『就活がこわい！働くことがこわい！—女性にとって生きること・働くこと—』を開催しました。今回は「働けと言わないワーキングマガジン」『フリーターズフリー』を創刊し、「女性でも安心、貧乏でも安心」を目指す『女性と貧困ネットワーク』の発起人のお一人として、若者や女性のおかれている状況に声を上げ続けている栗田隆子さんをお迎えしました。

トークショーではまず、所長柚木が栗田さん

と対談形式で、栗田さんのこれまで歩んできた道をお話いただきました。引き続き栗田さんに「女性にとって生きること・働くこと」をお話いただきました。これらの報告の後に、生活文化学科の田中美智先生並びに今井久美子先生より、それぞれ興味深いコメントをいただきました。その後、参加者の方々から多数の質問や「私も一言」が寄せられ、初めての試みは盛況のうちに幕を閉じることができました。

本トークショーには本学の教職員はじめ大学院生並びに学部生、また外部の方も遠方より足を運んでいただき約30名が参加し、就職活動

に不安を抱え、女性のキャリア形成について、若い女性の生きづらさについて、正社員を中心と想定している日本社会のあり方など、フロアからも活発な意見が出されました。大学を卒業して、正社員の社会人になるという従来の日本社会が描いていたコースが険しくなっている昨今、この荒波に負けないよう、今自分ができることは何か、改めて考える機会となりました。



キャンパスだより

楽しさの発信……「Student Adviser」

本年度より本格スタートしたStudent Adviserは学科学年の枠にとらわれずに柔軟な発想と感覚で学内に向けて楽しい企



画や情報発信をしてきています。SAセンター内の家具選定購入から室内飾り付けに始

まり、新入生ガイダンス期間における履修相談やお花見ランチ、一人暮らし新入生のための天王台周辺お店マップの作成や料理レシピ情報、上級生から後輩への就職活動支援情報発信、美術部作品展、バルーン・アート、ネイル・アート講座、浴衣着付け教室、花火の夕べ、バーベキュー大会など様々な楽しみをプロデュースしています。これからもSAは「在学学生はみんな友達」という精神のもと、いろいろな趣向で楽しみを演出してくれることでしょう。Student Adviserの主体的取り組みによる活動は「大人としての第一歩」であり、人材育成の観点から「前に踏み出す力」の醸成にも効果があると思います。Student Adviserが本学の新たな学生文化として根付いていくことを期待しています。

鎌ヶ谷市北部少年教室に参加して

幼児教育学科 3年 広川 美幸

生涯教育研究会サークルに所属し、先輩の紹介でこの教室に参加したのが始まりでした。少年教室は、公民館事業の一つとして平成7年度より開催されており、近隣の小学生（4年生から6年生）、男女30名を募集して一年間にわたって活動を行っています。二ヶ月に一回のペースでイベントがあり、平成20年度は、交流会（ミニ運動会）・エコクッキング・流しそうめん・フリーマーケット・クリスマス会・宿泊研修などを行いました。

これらの活動プログラムは、企画から運営までのすべてを子どもたちが行うので、それらを学生スタッフがサポートするというものです。

学生スタッフとして参加して今年で5年目（社会教育学科卒業後、現学科に編入）になりますが、一緒に事業を行うことの難しさ、悩み、怒られたり、一緒に笑ったり、泣いたりときざまな体験をしましたが、子どもたちや学生スタッフの仲間がいたからこそ今

日まで続けることが出来たのです。その意味から、子どもたちや仲間への感謝の気持ちで一杯ですし、ここで出会った人のつながりは今後もずっと大切に持ち続けていきたいと思っています。

子どもたちとは一年間という期間ですが、彼らの成長を肌で感じ、地域の方々と交流や意見交換ができとても楽しく有意義な学生時代を送っています。今後もできるだけ時間をとって参加したいと思っています。



綱引き大会

挑戦!! 1・2年生に広がるインターンシップ体験

就職支援室

インターンシップといえば、就職活動前の職業体験として、3年生を中心に参加する傾向が続いてきました。ところが、本年は、景気低迷、新卒採用の激減もあり、1・2年生からインターンシップを経験したいと思う学生が増えています。

12月実施の「KOKUYO低学年インターンシップ」へは2年生5名が参加し

ました。

3日間のインターンシップでは、1日目の「自己紹介」「業界って何? 会社とは?」、「会社の中の仕事（職種）」からスタートし、2日目から「マーケティングとは」「商品企画演習」と本格的な内容を学びました。

最終日の3日目は、最大の難関「商品企画案 プレゼンテーション大会」です。参加各大学の就職部・キャリアセンター関係者や、お世話になったKOKUYOのスタッフの皆様を前にして発表会を行いました。ヒット商品を企画することの大変さを実感しました。

また、平成21年度観光サービス人材育成研修事業「旅館・観光・おもてなし

インターンシップ研修」（主催：社団法人日本観光協会/協力：千葉県旅館ホテル生活衛生同業組合）には、1年生、2年生を中心に約30名が参加しました。

初日は、事前講習会。「接客に大切な“心”とその心をはぐくむ“やりがい”」を知るために、“喜び”を、現役女将に経験を交えて迫力満点に語って頂き、接客5要素（態度・身だしなみ・表情・挨拶・言葉使い）を学びました。

2泊3日の宿泊研修では、千葉県内の宿泊施設（ホテル・旅館）に分かれ、「ロールプレイを通じて、接客の基本を自分のものにしましょう」をテーマに、サービス担当（接客担当）社員の指導のもと、チェックアウト対応や迎え入れを体験しました。最終日は、経営者とミーティングを行い、おもてなしの心や経営者の考え方など、普段触れられないサービスの真髄に迫ることができました。



●剣道同好会

こんにちは。剣道同好会です。現在、3年生1名、2年生9名、1年生6名の16名で活動しています。明るく・楽しく・仲良くをモットーに、毎週火曜日の3時間程度ではありますが、部員全員志気を高くもっているため、内容の濃い稽古ができています。

部員の半数が有段者なのですが、その中には大学に入ってから剣道を始めた人もいますよ！ 特別運動神経が良くなくても、「剣道が好き」という気持ちで稽古すれば、二段・三段と上を目指することができます。

先日行われた我孫子市民大会では、30人強出場していた高校一般女子の部で、優勝・準優勝・3位を独占することができました。入賞した人も、残念ながら負けてしまった人も、その気持ちを糧に次の段級取得を目指して稽古に励もうと思います。応援よろしくお祈いします！ 部員も随時募集しているので、興味のある方は一度見学にきて下さい。お待ちしております。

●ラクロス部

こんにちは！ ラクロス部です。私たちは3年4人、2年1人、1年5人の計10人で活動しています。学内だけでなく大会や合宿などにも積極的に参加し他大学と合同チームを組んで出場するなど学外へも幅広く交流を持っている部活です。今は一年生の冬の大会である「ウィンターステージ」に向けて目白大学さんと合同チームを組みながら、お互いに切磋琢磨し大会優勝を目指しています。



公開講座「アートを楽しむ」

児童教育学科 教授 荻原 延元

本年度より市民公開講座は大学の主催となり、今回はその初めての試みとして、大学の実技科目を担当する専任教員の4名を選びました。そして我孫子市に限らず広範囲の地域（我孫



子・柏・鎌ヶ谷・野田・取手・守谷市)にも広報することにし、それらの市役所および公民館などにも協力を願ひ、広報委員会で作成した大学公開講座のポスター・チラシを掲示してお知らせをしました。

内容は前半10月24日“シルク絞り（オリジナルムービー）”森田玲子、“ステンシル（おしゃれバッグ）”高橋裕子、後半10月31日では“親子でいっしょに造形遊び（草木染）”葉山登、“古典模写を楽しむ（鳥獣戯画・不動明王図）”荻原延元が協力して担当、すべて参加費は無料としました。幸い両日ともに天気に恵まれて爽やかな秋の陽射しの中、応募で参加された周辺地域の約36名の人々が来校されました。新築の14号館3階図工室および本年3号館近くにつくられた染色室にて、午前10時から午後4時頃まで大変熱心にそれぞれに実技を楽しまれ、大学と市民の交流を深める事となりました。

■教員の活動

出版

西川 誠（史学科 教授）

『史料を読み解く4 幕末・維新の政治と社会』共著

●2009年6月25日発行 ●定価 1,995円（税込）山川出版社

松原由枝（心理学科 教授）

『ソディ・テスト 心理臨床に生かす活用法』

本書は人格投影法のソディ・テストの成立背景からテストの理論、方法、解釈について事例を通して書かれたものである。

●2009年9月19日発行 ●定価4,935円（税込）培風館

『カウンセリング心理学』

●近日発行予定 ●価格未定 培風館

渡邊昭彦（心理学科 教授）

『カプラン臨床精神医学Q&Aレビュー』監訳

アメリカの標準的な精神医学教科書であるカプランの問題集。専門医向けではあるが、教科書の要約としても通読できる内容。

●2009年8月29日発行

●定価8,000円（税込）メディカル・サイエンス・インターナショナル

簗下成子（心理学科 准教授）

『読顔カラーコミュニケーション・プロフィールの作り方』共著

●2009年12月1日発行 ●定価 735円（税込）小学館

上橋菜穂子（児童教育学科 教授）

『「先住民」とはだれか』共著

●2009年11月発行 ●定価4,095円（税込）世界思想社

入選

高橋裕子（生活文化学科 講師）

芸術文化振興基金助成事業「おどる国文祭」平成21年度 全国現代クラフト展（公募）〔後援：文化庁・徳島県他〕にて、『染色アート ～瑞祥～』が入選され、徳島県郷土文化会館内に展示されました。



卒業生は今

●●● MAILBOX

藤村 紀代

史学科 2009年卒



現在私は、愛知県で中学校の
社会の先生として働いています。
担当は受験を控えた3年生。公民の授業の教材
研究は大変で、生徒たちに政治や経済へ興味を
もってもらおうと試行錯誤する毎日です。“生
徒たちと一緒に学んでいこう”という気持ちで
がんばっていますが、今は1日の仕事をこなして
いくことで精一杯です。しかし、日々成長
していく生徒たちの姿に感動し、元気をもらっ
ています。感謝のこころと思いやりを忘れずに、
経験を積んでいきたいと思っています。

明間 千種

社会教育学科 2006年卒



市の中学校で司書の仕事に着
いて4年目に入りました。学校
での多くの業務はひとり仕事で、最初は戸惑
うことばかりでしたが、先生方から要望を聞
いて選書をしたり、調べ学習の時間に資料を
探しにきた生徒に目的の本を手渡ししながら、
先生方にも生徒にも司書の存在に慣れていっ
てもらい、また私もより細かな要望に応えら
れるようになってきました。

昼休みの図書室は、本好きの生徒や本は開
いているけど…という生徒でにぎやかです。
今後も好奇心と向上心を忘れず、アンテナを
張って情報収集しながら、先生方や生徒のニ
ーズに応えていけるよう研鑽を重ねていきた
いと思います。

稲垣 のぞみ

情報コミュニケーション学科 2008年卒



私はソフトウェア会社に入社
し、プログラマーとして働いてい
ます。将来的にはシステムエンジニアになり、
お客様の要望を聞いて、便利だと感じて頂ける
システムを提案していきたいと思っています。
現在担当している業者は、製薬会社のシステ
ムの開発です。業務では大変なことも多く、弱
音を吐くこともあります。やり遂げた際の達
成感は格別です。入社してから2年経ち、様々
な経験をさせて頂きました。これからも多く
の業務に携わり、日々成長していきたいです。

梅林 佳耶子

観光文化学科 2008年卒



私は株式会社ホテルオークラ
東京ベイに勤務しています。仕

事はホテル内の和食レストランでのお客様サ
ービスです。和食はホール、鉄板焼、座敷の
3つの空間に分かれていて、どの業務もサー
ビスを念頭に丁寧に行いますが、座敷は一組
のお客様への接客を丁寧に行います。和食の
マナー、知識や作法を身につけ、着物も一人
で着ています。私に会いに来てくださるリビ
ーターもできました。接客は楽しく、視野が
広がります。これからは自分の世界を広げて
いきたいと思っています。

白井 真澄

生活文化学科 2008年卒



私は学生時代の実習先であつ
た産婦人科のクリニックに栄養
士として就職しました。学生時代から管理栄
養士を目指していたので、就職先で1年間の
実務経験を積みながら試験勉強を両立させま
した。そして今年の3月に国家試験を受け無
事合格することができました。仕事をしなが
ら勉強することは決して簡単ではありません
でしたが、目標を持って努力すれば結果は
必ずついてくると信じています。現在は栄養相談
などを行っています。まだまだ学ぶことがば
かりです。

学 科 の 現 在

●国際英語学科

国際英語学科は大学の外に活躍の場を広げて
います。9月には我孫子市主催のスピーチコン
テストに6名参加し、2名が賞を取りました。



来年度は9
名がTOEFL
やIELTSの
試験に合格
し英米に留
学します。

●史学科

今年もいくつかの4年ゼミでは、卒論の準備と見学
を目的として、夏休みにゼミ合宿を行いました。山本
ゼミは大阪、梅村ゼミは島根・広島、生井澤ゼミは山



口・広島、西川ゼミは山口で
した。広島では学生の多く
が広島平和記念資料館で感
銘を受けたようです。写真
は西川ゼミが木戸孝允邸を
見学しているところです。

●心理学科

心理学科では4月か
ら浅井教授が教育学部長
に異動したことにともな
い、学科長が松井教授に
交代しました。また、来
年度からは心理と臨床の
2コース制からコース
分けのない教育カリキュ
ラムになります。

●幼児教育学科

4号館一階廊下を幼教ギャラリーとして、図
画工作授業作品を展示しています。いろいろ色
や素材に触れる、心とからだを動かす、自身が楽しみ
子どもたちを喜ばすことを
目的として生まれた作品で
す。どうぞご覧ください。



●児童教育学科

豊かな感性をもち、優しく、かつ自分に厳しく、現場で生き生きと働ける小学校
教員を養成する学科です。1年生は我孫子市立第二小学校の訪問、2年生は川村
小学校の運動会の手伝いや授業参観をしました。

学園祭では、小学生を招待し、イカやタコ、手作りのペンギンのマラカスを手に、
音楽に合わせて踊りました。皆の笑顔が教室一杯に広がる楽しい一時でした。この
ような活動を通して、学科全体で新しい時代の小学校教員養成に努めております。

●観光文化学科

「地域研究」の実習で、7月29日に横須賀・
横浜開国博見学会を行いました。横須賀では
軍港めぐり遊覧船で自衛隊や米軍の施設、軍
艦などを見て回り、基地のまち独特の文化に
触れたのち、横浜
に移動して「横浜
開国博」を見学し
ました。



●日本文化学科

日本文化学科では3年生対象に就職セミ
ナーを開いています。現在から将来への自
分のライフコースをしっかりと見据えようと
奮闘しています。11月25日のセミナー・
テーマは「女性が、結婚・出産を経ても社
会とかかわりを持つことが
できる働き方をみつけるた
めに」でした。



編集後記

- 「花時計」ちょっと変わりました。
御意見お聞かせ下さい。(M.N.)
- 大学も花時計も少しかわりました。
これからもよろしく。(H.U.)
- いつになっても新しい発見があるも
のだなと思いました。(H.M.)
- 卒業生のみなさんご活躍を知るよ
い機会となっています。(K.T.)

発行日/平成22年1月18日第27号発行
制作/川村学園女子大学広報委員会